

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400032
法人名	(株)たかちほ
事業所名	グループホーム明浜館
所在地	愛媛県西予市明浜町高山甲688番地
自己評価作成日	平成25年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>しっかり食べて、しっかり出す、よく笑う</p>
----------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は入り江の高台に建設された、オレンジの屋根が美しい木造平屋建ての建物である。運営推進会議で話し合いを重ねていくうちに、地域住民や関係機関等の理解や協力を得られるようになり、今では地域の重要な社会資源として活用されている。現在、約8割の利用者が地域から入居しており、職員も地域から採用が多く、地域に馴染みがある。職員は、利用者本位のケアを提供したいと考え、実践に努めている。利用者の残存能力を生かす工夫をしたり、なるべく自立した生活が送れるよう支援している。家族が遠方に住む利用者も多く、最期まで事業所で見てもらいたいという要望に応えて、ターミナルケアに力を入れている。在宅医療に熱心な地域の協力医と協力して、看護師と共に24時間体制で支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

—サービス向上への3ステップ—

<b>事業所名</b>	グループホーム明浜館
<b>(ユニット名)</b>	南ウイング
<b>記入者(管理者)</b>	
<b>氏名</b>	土居・中平
<b>評価完了日</b>	25年 6月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員会議等で、機会があるごとに理念を唱え、その内容に沿った介護が出来ているか話合っています。</p> <p>(外部評価) 「人生の最終ステージを安心と尊厳のあるものとするために、その人らしい生き生きと暮らせるようになるため、私たちは力をつくしたい。」という理念は開設当初に作られたもので、誰にでも見えるように玄関に掲示して職員は実践できるように努めている。職員は、ケアに行き詰った場合は理念に立ち返るようにしている。利用者の重度化に伴い、終末期を事業所で迎える利用者が多くなり、利用者や家族と共に事業所を利用して「よかった。」と思ってもらえるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 馴染みの美容院を利用してもらったり、地元のお祭りなどがある時は、見物に行っています。小学生や婦人会に訪問してもらい交流を深めています。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入し地域の行事に参加している。夜間に行われる「潮ごり」の行事に利用者と一緒に参加して楽しんだり、祭りの神輿に事業所に来てもらうなど交流をしている。また、地区の幼稚園児や小学生が事業所を訪問して、歌を歌ったり花を持ってきてくれたりして利用者を和ませている。昨年、職員がインフルエンザで出勤ができなかった時には、地域の飲食店が調理を申し出てくれるなど協力を得ている。「何かあったら言ってや。」と地域住民が声をかけてくれる関係を築いている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 婦人会等の訪問時、推進会議時に認知症についての勉強会を開いて、理解してもらえるように努力しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の状況や、行事報告だけでなく問題点、事故やクレームの発生があった時はすべて報告し、色々な意見をいただき参考にしています。 推進委員さんより、行事の情報をいただき、地域との交流につなげる努力をしています。	
			(外部評価) 運営推進会議は、小学校校長、市議会議員、婦人会会長、老人クラブ会長、地主、神社の宮司、市担当者などの多くの参加を得て開催している。会議では事業所の現状報告を行い、認知症ケアやターミナルケアの理解に役立てている。地区消防団や市消防署員の参加を得る場合もあり、事業所敷地内に消火栓の設置が提案され市に要望するなど活発な意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議に、十分な時間をとり報告をしています。	
			(外部評価) 運営推進会議は市担当者が毎回参加しており、研修の案内や情報提供、意見交換などを行っている。市担当者は会議に新しく参加した住民に対して、運営推進会議の意義について説明してくれるなど協力的である。また、市明浜支所担当者とは生活保護や要介護認定の相談など、密に連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は夜間のみで、日中の出入りは自由とし、帰宅願望の強い時は落ち着くまで付き添い歩いています。 歩行困難で転倒、ケガの危険が考えられる場合は家族に説明、了解を得た上で床においてもらうなどの対応を行っています。	
			(外部評価) 玄関は防犯のため夜間のみ施錠し、日中は解放しており自由に出入りすることができる。利用者一人で外出する場合もあるが、見守りが必要で外出願望のある利用者には落ち着くまで職員が付き添って対応をしている。ベッドからの転落予防のため、家族の同意を得てベッド柵を使用したことがあるが、現在は畳の上に布団を敷いて寝てもらおう対応をするなど工夫をしている。身体拘束について職員は理解して支援しているが、関係が親密になることで、言葉づかいに馴れ合いや行き過ぎがないよう注意をして支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての研修に参加して、職員会議で研修報告をして、全員で学び防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 活用していません。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 理解をしてもらっています。 入居時、管理者が説明した上で契約をしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 推進会議や家族交流会で、ご家族の意見を伺っています。 普段の面会時の会話の中からでも要望的な話題が出れば報告しています。	
			(外部評価) 玄関に意見箱を設置して、利用者や家族が意見や要望を伝えやすいようにしている。年に1回、家族会と運営推進会議を同時開催し、職員や関係者との交流に役立てており、意見交換できる機会としている。また、遠方に住んでいる家族が多いため、定期的な訪問が難しく、毎月手書きの手紙で近況を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会に事務長も同席し、協議が必要があれば、取締役と相談し検討します。 運営に関する提案は出ていません。	
			(外部評価) 地域から採用している職員が多く、異動も少ないため良好なチームワークを築いている。日頃から職員間で意見や情報の交換を行い、管理者に伝えることができる。毎月の職員会議には事務長が出席し、職員の意見や要望を聞く機会にしている。職員から出された要望から時間外勤務手当や休日手当、資格手当が整備されるなど職員の意欲向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 時間外の手当、資格手当のup等、向上心を持てるよう配慮してもらっています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 把握に努めています。 又、資格を取るために支援しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 個々の交流はあるもののネットワークづくりや勉強会はできていません。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の不安を取り除き、職員や他の利用者と打ち解けることができる様な、言葉かけを心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が打ち解けてこられた時の要望をしっかりと受止めています。 不安材料を伝えるのではなく、安心して話し合える関係づくりを心掛けます。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスの利用開始に際しては、管理者が対応し主任と相談しながら、スタッフも含めて対応を検討しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員全員の名前を覚えられている方や、「看護婦さん」と呼ばれる方、様々ですが、気持ちの良い挨拶から始まり、共に暮らしていく中でよい信頼関係が築いています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 地域行事（花火・お祭）クリスマス会など家族の参加を交える機会を多くし、相談できる関係を築いています。 日常の変化があった場合は、家族に連絡し、状態を把握して頂くようにしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 気軽に面会できるよう配慮しています。 面会がない方には、家族等に電話・手紙などで状態を報告し関係が保てる様にしています。 幼馴染の知人が来訪されています。  (外部評価) 入所時に利用者の生育歴や人間関係を利用者や家族に聞くなど把握に努めている。利用者の多くは地域から入居しており、地域から採用されている職員も多く、知り合いの利用者もいる。地元の理髪店や美容院に出かけることができる利用者には、継続して利用できるよう支援している。また、出かけることが困難な利用者には訪問での理美容サービスを提供している。また、利用者の通院や買い物で外出した時に、地域住民が声かけをしてくれるなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士の関係が保てる様に職員が調整役となっています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院されたり他の施設へ入られてもこまめに連絡をとったりお見舞いを続けます。 また、参考になる事をお伝えしています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望を聞き、暮らしやすい様に心がけています。	
			(外部評価) 職員は、利用者の希望や思いを実現したいと考えており、職員が利用者との時間をかけて向き合うなど把握できるように努めている。利用者が希望する食べ物や行きたい場所などを把握して、実現できるよう支援している。利用者の重度化により、思いが表せない利用者が増えてきているが、元気だった頃を振り返ったり、表情などから思いを汲み取るよう努めている。	利用者を理解して、よりよいケアに繋げていくために記録の重要性を認識しており、「利用者の生きた証を残したい。」と考えている。そのために、日常のケアの中で利用者の言葉を聞き取り、記録に残していくことにより、新たな気づきやより深い利用者の理解が進むことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 月に一度の職員会議で話し合い、ご家族の方にも話を聞いています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の暮らし、申し送り等で、心身の状態の変化や過ごし方の把握をしています。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の状態に合った介護計画を立てる事ができています。	
			(外部評価) 入居時の介護計画は管理者が作成し、職員全員でモニタリングをして見直しをしている。初回以降の介護計画はユニット毎で介護支援専門員と担当者が作成し、月1回のケア会議で検討し、介護計画の見直しをしている。また、利用者の状態に変化があった場合は、随時見直しをしている。利用者の意向の確認が困難な場合は、日々のケアの中での気づきを出し合い、できるだけ汲み取るよう努めて計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) その時の体の状態ではなく精神面等についても細かく記録し、出来る事、出来ない事を把握し次につなげています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) より良い生活を送れる様、日々考えながら介助させて頂いています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 病院受診や理美容室、買い物、地域行事への参加等で地域の方々との関わりを大事にしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 病院受診については本人御家族納得の上、行くように しています。  (外部評価) 地域の協力医が在宅医療に力を入れており、利用者全 員がかかりつけ医としている。協力病院の看護師が、 毎週居室を訪問し、健康相談や健康管理をしている。 重度化した利用者も安全安心して通院ができるよう に、事業所でリフトバスを購入して支援している。他 の専門医の受診が必要な場合は、職員が同行して受診 することができる。また、入院が必要となった場合は 利用者の情報を病院職員に提供し、入院後も洗濯物の 交換等のため、他の利用者と一緒に見舞いに行くなど 継続して支援している。早期に退院できるよう病院と 密に連携して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) すぐ医療機関へ連絡を入れる様心がけています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ほぼ出来ています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 状態によって御家族の気持ちも変わるので、こまめな 情報の交換、連携をとる様になっています。  (外部評価) 家族が遠方に住む利用者が多いため、最期まで事業所 で見てもらいたいという要望が強くあり、開設以来多 くの利用者の看取りを経験している。利用者の尊厳あ るターミナルケアを掲げた看取り指針を作成してお り、利用者や家族に入居時や状態の変化があった時に 説明をしている。在宅医療に熱心な協力医と24時間 体制で連携を取っており、定期的に看護師が訪問する など安心して利用することができ、職員も安心して支 援することができる。また、管理者はいつでも事業所 に駆けつけるよう準備している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) デイサービス職員と一緒に年一回、消防署職員に来て頂き、救急法を実施しています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年一回避難訓練をしています。 今年度も夜勤帯での設定で実施しました。	
			(外部評価) 定期的に消防署の協力を得て避難訓練を実施している。日常的にも緊急時を想定した予告なしの自主訓練を行っている。事業所内にはベランダへの避難手順を目立つ所に掲示しており、職員2名で9分以内に利用者が安全に避難できることを目指している。事業所は高台にあるため、地元消防団の到着が遅れる可能性が高く、運営推進会議で討議した結果、敷地内に消火栓を設置してもらえよう市に要望を出している。また、災害用備蓄品として、レトルト食品、水、カセットコンロ、懐中電灯等を用意している。	災害時に避難が困難な立地条件であるため、職員が利用者を安全に避難できるように昼夜の訓練を繰り返している。関係機関と合同で自治体に要望した消火栓の設置が実現できることと、災害時の地元消防団や関係者との具体的な協力体制が得られるよう、役割分担について話し合いを重ねて行い、万が一に対応できるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員一同プライバシー確保について充分話し合っています。	
			(外部評価) 管理者は、職員に利用者を職員自身の親に接するような気持ちでケアするよう日頃から話している。利用者は地域からの入居が多く、職員も地域採用者が多いため、利用者を愛称で呼びかけることもあるが、行き過ぎた言葉づかいにならないよう気をつけている。また、利用者の居室に勝手に立ち入らないようプライバシーに配慮している。転倒の危険が予測される利用者は、家族の同意を得て、職員がトイレの中へ付き添い気を配りながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ほぼ出来ています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族の希望で美容院に行かれる方もいます。 服装については、季節に合った本人が好む服装が出来るようにしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る事を手伝ってもらい、一緒に準備や片付けをお願いしています。	
			(外部評価) オープンキッチンになっており、食堂から調理の様子や匂いを感じることができる。地域の商店に依頼して、毎日旬の食材を配達してもらい職員が調理している。利用者にとって懐かしい味の郷土料理や手作りおやつが食卓にのぼり、楽しみのひとつになっている。利用者の希望により食事時間を変更することができ、早朝に食べる利用者もいる。嚥下など利用者の状態に合わせて食べやすい工夫をしたり、スプーンの形状を工夫するなど、利用者自身で食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人に合った食事形態を提供する地元の旬の物、季節を考えたメニューを心掛けます。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 出来るだけ入居者自身にして頂き、細かい部分や、出来ていない所は介助し、口腔内を清潔に保っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの気持ちの良い排泄を心掛け、声掛けし早めのトイレ誘導を支援しています。 オムツ使用の方には、失禁の軽減に職員で話し合いそれに向けて努力しています。	
			(外部評価) 「排泄はトイレで」という介護目標に定めており、日中は可能な限りトイレで排泄ができるよう支援している。立位が取れない利用者には2人体制で介助をしている。便秘予防のため、利用者の水分補給や野菜ジュースを飲むようにして対応している。また、自然排便がない利用者は医師と相談の上で緩下剤の調整を行い、快適に過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 歩ける方には、散歩や棟内歩行など適度な運動をしてもらい、車椅子の方も、介助時立ち上がりの声掛けや、レクリエーションを通して体を動かしてもらう。栄養のバランスの摂れた食事（バナナ・牛乳）の摂取、水分補給も気をつけており、それでも排便がない場合は服薬にて対応しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 介助や見守りが必要な方がおり、入居者全員の希望を叶えることは難しいが、入浴の時間帯など希望に添っています。 入浴が苦手な利用者さんにも声かけなど、工夫しながら入浴を楽しむよう支援しています。	
			(外部評価) 2日に1回を基本として、利用者の希望に合わせて入浴ができるように努めており、入浴が好きな利用者は毎日入浴することができる。立位が取れない利用者には2人体制で入浴介助をしたり、適切な福祉用具を活用して気持ちよく入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の体動を増やし、安眠できるよう心掛けています。 居室にて、マイペースに過ごされる方もいます。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は個別に管理し、日勤のリーダーと夜勤者が服薬支援・介助をしています。 受診により、薬の変更があった場合も、申し送りし、職員全員が把握し誤薬の無い様に努めています。 副作用についても、職員全員が把握しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみ、食器ふき、料理の準備など、入居者それぞれに合った役割を果たすことの支援が出てきています。 海が一望でき、窓から外を眺められる方もいます。 季節に応じての外出や地域行事の参加も支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) しっかり、歩ける方には、散歩してもらい、見守りが必要な方には庭で花をみたり、外気浴など支援しています。	
			(外部評価) 利用者の重度化に伴い、車いすの使用が増えており、日常的に外出できる利用者は少なくなっている。事業所はリフトバスを購入し、通院の途中でスーパーで買い物ができるよう支援をしている。毎年、家族の協力を得て、観音水のそうめん流しに外出できるよう支援している。今年は、運営推進会議の委員に協力を得て外出支援ができるよう考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が所持されている方もおられますが自己管理する方がほばいないので小遣い帳を作り、ホームが管理しています。 外出や外泊などで、本人の希望に応じて、所持したり、使えるように支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を掛ける際、また、家族からの電話の時はダイヤルの介助や静かな場所で座って落ち着いて電話できるよう支援しています。 本人の希望により、手紙の代筆なども支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 日中、ユニット内（ホール・廊下・トイレ）浴室など毎日掃除を行い気持ちよく過ごして頂いています。季節に応じた壁面作りや、写真の掲示など、またテーブルに季節に応じた花を飾り和んでいただいています。</p> <p>(外部評価) 床や壁に木がふんだんに使用され、温かさが感じられる空間となっている。リビングは吹き抜けになっており、明るく広々と感じられ、テレビを置いている畳のスペースからは海を望むことができる。夕食後は皆で時代劇を観て楽しんだり、洗濯物をたたんだりして自由にくつろぐことのできる憩いの場になっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 居室でのんびり過ごされる方や、テレビを観られる方、隣のユニットにも行き来されたり思い重いに過ごして頂けるよう支援し、テーブルの配置なども心掛けています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた座椅子や、ソファ、テレビなど持って来られ、居心地よく過ごして頂いています。</p> <p>(外部評価) 居室には、木製のベッドとたんすが備えられている。管理者は、家族に利用者の馴染みの家具や記念の物を持ち込むように声かけをしており、利用者は仏壇や位牌を持ち込みむなど落ち着いた生活が送れるよう支援している。利用者が作った俳句を職員が清書して居室入口に飾り、創作の励みになっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 時間がかかってもなるべく出来ることを見守りながら支援しています。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400032
法人名	(株)たかちほ
事業所名	グループホーム明浜館
所在地	愛媛県西予市明浜町高山甲688番地
自己評価作成日	平成25年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>しっかり食べて、しっかり出す、よく笑う</p>
----------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は入り江の高台に建設された、オレンジの屋根が美しい木造平屋建ての建物である。運営推進会議で話し合いを重ねていくうちに、地域住民や関係機関等の理解や協力を得られるようになり、今では地域の重要な社会資源として活用されている。現在、約8割の利用者が地域から入居しており、職員も地域から採用が多く、地域に馴染みがある。職員は、利用者本位のケアを提供したいと考え、実践に努めている。利用者の残存能力を生かす工夫をしたり、なるべく自立した生活が送れるよう支援している。家族が遠方に住む利用者も多く、最期まで事業所で見てもらいたいという要望に応えて、ターミナルケアに力を入れている。在宅医療に熱心な地域の協力医と協力して、看護師と共に24時間体制で支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム明浜館

(ユニット名) 北ウイング

記入者(管理者)  
氏名 土居京子

評価完了日 25年 6月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念に基づいて実践できるように一人一人日々努力しています。</p> <p>(外部評価) 「人生の最終ステージを安心と尊厳のあるものとするために、その人らしい生き生きと暮らせるようになるため、私たちは力をつくしたい。」という理念は開設当初に作られたもので、誰にでも見えるように玄関に掲示して職員は実践できるように努めている。職員は、ケアに行き詰った場合は理念に立ち返るようにしている。利用者の重度化に伴い、終末期を事業所で迎える利用者が多くなり、利用者や家族と共に事業所を利用して「よかった。」と思ってもらえるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事や活動に参加して交流を深めるようにしていますが、日常的ではありません。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入し地域の行事に参加している。夜間に行われる「潮ごり」の行事に利用者と一緒に参加して楽しんだり、祭りの神輿に事業所に来てもらうなど交流をしている。また、地区の幼稚園児や小学生が事業所を訪問して、歌を歌ったり花を持ってきてくれたりして利用者を和ませている。昨年、職員がインフルエンザで出勤ができなかった時には、地域の飲食店が調理を申し出てくれるなど協力を得ている。「何かあったら言ってや。」と地域住民が声をかけてくれる関係を築いている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 老人会、婦人会の方、小学校、校長先生、民生委員さんに来ていただき、グループホームの内容を説明しています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度、多くの方に来ていただき、ホームのことを報告し、意見をもらって、サービス向上に努めています。	
			(外部評価) 運営推進会議は、小学校校長、市議会議員、婦人会会長、老人クラブ会長、地主、神社の宮司、市担当者などの多くの参加を得て開催している。会議では事業所の現状報告を行い、認知症ケアやターミナルケアの理解に役立てている。地区消防団や市消防署員の参加を得る場合もあり、事業所敷地内に消火栓の設置が提案され市に要望するなど活発な意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議に参加してもらい、市や県の情報を聞かせてもらっています。	
			(外部評価) 運営推進会議は市担当者が毎回参加しており、研修の案内や情報提供、意見交換などを行っている。市担当者は会議に新しく参加した住民に対して、運営推進会議の意義について説明してくれるなど協力的である。また、市明浜支所担当者とは生活保護や要介護認定の相談など、密に連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間のみ施錠させてもらっています。	
			(外部評価) 玄関は防犯のため夜間のみ施錠し、日中は解放しており自由に出入りすることができる。利用者一人で外出する場合もあるが、見守りが必要で外出願望のある利用者には落ち着くまで職員が付き添って対応をしている。ベッドからの転落予防のため、家族の同意を得てベッド柵を使用したことがあるが、現在は畳の上に布団を敷いて寝てもらおう対応をするなど工夫をしている。身体拘束について職員は理解して支援しているが、関係が親密になることで、言葉づかいに馴れ合いや行き過ぎがないよう注意をして支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の意味を理解し、見過ごさないよう努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修には参加しましたが、まだ活用された方はいません。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書、重要事項説明書に添い、説明にゆっくり時間をとっています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 重要事項説明書にもお願いしていますが、まだ玄関の意見箱を利用された人はいません。	
			(外部評価) 玄関に意見箱を設置して、利用者や家族が意見や要望を伝えやすいようにしている。年に1回、家族会と運営推進会議を同時開催し、職員や関係者との交流に役立てており、意見交換できる機会としている。また、遠方に住んでいる家族が多いため、定期的な訪問が難しく、毎月手書きの手紙で近況を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の会議に事務長も必ず出席し、職員の意見を聞き、代表者に報告してもらっています。	
			(外部評価) 地域から採用している職員が多く、異動も少ないため良好なチームワークを築いている。日頃から職員間で意見や情報の交換を行い、管理者に伝えることができる。毎月の職員会議には事務長が出席し、職員の意見や要望を聞く機会にしている。職員から出された要望から時間外勤務手当や休日手当、資格手当が整備されるなど職員の意欲向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 時間外の手当、資格手当のup等、向上心を持てるよう配慮してもらっています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 把握に努めています。 又、資格を取るために支援しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 個々の交流はあるもののネットワークづくりや勉強会はできていません。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 出来る限り、伺っています。 本人さんからの声が聞こえないときは、ご家族としっかり話すようにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前、入浴後不安にならないようしっかり話し合っています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 最も必要とされていることを聞いて、プランに反映しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 努力しています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の少ないご家族には連絡し、電話や手紙で疎遠にならないようにしてもらっています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 訪ねてこられた方々と、ゆっくり話ができるよう支援したり、馴染みのパーマ屋さんを利用しています。	
			(外部評価) 入所時に利用者の生育歴や人間関係を利用者や家族に聞くなど把握に努めている。利用者の多くは地域から入居しており、地域から採用されている職員も多く、知り合いの利用者もいる。地元の理髪店や美容院に出かけることができる利用者には、継続して利用できるよう支援している。また、出かけることが困難な利用者には訪問での理美容サービスを提供している。また、利用者の通院や買い物で外出した時に、地域住民が声かけをしてくれるなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 室内に閉じこもる方はいません。 ホームでの生活の場面で、それぞれ何となく仲間意識が出ています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院、退去後、電話にて連絡をとり支援に努めています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の関わりの中で、会話、表情などからその人の思いや希望を把握するように努力しています。	
			(外部評価) 職員は、利用者の希望や思いを実現したいと考えており、職員が利用者との時間をかけて向き合うなど把握できるように努めている。利用者が希望する食べ物や行きたい場所などを把握して、実現できるよう支援している。利用者の重度化により、思いが表せない利用者が増えてきているが、元気だった頃を振り返ったり、表情などから思いを汲み取るよう努めている。	利用者を理解して、よりよいケアに繋げていくために記録の重要性を認識しており、「利用者の生きた証を残したい。」と考えている。そのために、日常のケアの中で利用者の言葉を聞き取り、記録に残していくことにより、新たな気づきやより深い利用者の理解が進むことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査、本人、家族と会話して、今までの生活を出来る限り続けられるようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活のリズムを大切に、ホームでの生活を充実できるように努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員会議で、ケアプランの見直し、家族説明のもと、意見希望を聞きながら、作成するようにしています。	
			(外部評価) 入居時の介護計画は管理者が作成し、職員全員でモニタリングをして見直しをしている。初回以降の介護計画はユニット毎で介護支援専門員と担当者が作成し、月1回のケア会議で検討し、介護計画の見直しをしている。また、利用者の状態に変化があった場合は、随時見直しをしている。利用者の意向の確認が困難な場合は、日々のケアの中での気づきを出し合い、できるだけ汲み取るよう努めて計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々のファイルを作成し、その時の体の状態、日々の暮らしぶり、言葉を記録しています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 一人一人どの様にすればより良く生活を送ることが出来るのかを日々考えながら介助させていただいています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 病院や理・美容室だけでなく地域の方々との関わりを大事にしています。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医師に定期受診を行い家族の要望があれば、他の 医療機関への受診介助も行っています。</p> <p>(外部評価) 地域の協力医が在宅医療に力を入れており、利用者全 員がかかりつけ医としている。協力病院の看護師が、 毎週居室を訪問し、健康相談や健康管理をしている。 重度化した利用者も安全安心して通院ができるよう に、事業所でリフトバスを購入して支援している。他 の専門医の受診が必要な場合は、職員が同行して受診 することができる。また、入院が必要となった場合は 利用者の情報を病院職員に提供し、入院後も洗濯物の 交換等のため、他の利用者と一緒に見舞いに行くなど 継続して支援している。早期に退院できるよう病院と 密に連携して対応している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 職員同士で話し合い協力医師、看護師に相談していま す。 週に一度は来ていただき健康チェックをしてもらいま す。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 協力医師から手配して頂き、入院治療等できる様にし てもらっており、情報提供も双方ができる様にしてい ます。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族、職員、主治医と話し合い家族（本人）の希望に 添えるように支援しています。</p> <p>(外部評価) 家族が遠方に住む利用者が多いため、最期まで事業所 で見てもらいたいという要望が強くあり、開設以来多 くの利用者の看取りを経験している。利用者の尊厳あ るターミナルケアを掲げた看取り指針を作成してお り、利用者や家族に入居時や状態の変化があった時に 説明をしている。在宅医療に熱心な協力医と24時間 体制で連携を取っており、定期的に看護師が訪問する など安心して利用することができ、職員も安心して支 援することができる。また、管理者はいつでも事業所 に駆けつけるよう準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の指導を受け、応急処置方の講習や体験を受けるなどしています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導を受け、年に1度避難訓練をしています。今年度は夜勤帯で職員が2名しかいないという設定で実施しました。  (外部評価) 定期的に消防署の協力を得て避難訓練を実施している。日常的にも緊急時を想定した予告なしの自主訓練を行っている。事業所内にはベランダへの避難手順を目立つ所に掲示しており、職員2名で9分以内に利用者が安全に避難できることを目指している。事業所は高台にあるため、地元消防団の到着が遅れる可能性が高く、運営推進会議で討議した結果、敷地内に消火栓を設置してもらえよう市に要望を出している。また、災害用備蓄品として、レトルト食品、水、カセットコンロ、懐中電灯等を用意している。	災害時に避難が困難な立地条件であるため、職員が利用者を安全に避難できるように昼夜の訓練を繰り返している。関係機関と合同で自治体に要望した消火栓の設置が実現できることと、災害時の地元消防団や関係者との具体的な協力体制が得られるよう、役割分担について話し合いを重ねて行い、万が一に対応できるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室への入室は声掛けし本人の了解を得ています。  (外部評価) 管理者は、職員に利用者を職員自身の親に接するような気持ちでケアするよう日頃から話している。利用者は地域からの入居が多く、職員も地域採用者が多いため、利用者を愛称で呼びかけることもあるが、行き過ぎた言葉づかいにならないよう気をつけている。また、利用者の居室に勝手に立ち入らないようプライバシーに配慮している。転倒の危険が予測される利用者は、家族の同意を得て、職員がトイレの中へ付き添い気を配りながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の意向や思いを察知し、体調などに無理のない様に支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 自発的に動ける方、又、それぞれの方の気持ちを尊重しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に応じた服になる様支援したり爪切りや髭剃りは、気をつけて行っています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立によっては、下ごしらえの手伝いをして頂いたり、テーブル拭きなどして頂いています。 片付けなどは、重度化傾向なので、手伝ってもらうことができなくなっています。	
			(外部評価) オープンキッチンになっており、食堂から調理の様子や匂いを感じることができる。地域の商店に依頼して、毎日旬の食材を配達してもらい職員が調理している。利用者にとって懐かしい味の郷土料理や手作りおやつが食卓にのぼり、楽しみのひとつになっている。利用者の希望により食事時間を変更することができ、早朝に食べる利用者もいる。嚥下など利用者の状態に合わせて食べやすい工夫をしたり、スプーンの形状を工夫するなど、利用者自身で食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分補給は、こまめに気を遣っています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケア誘導、介助を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレにじむんで行けない方は、時間を見て、声かけ誘導し、一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を心掛けています。	
			(外部評価) 「排泄はトイレで」という介護目標に定めており、日中は可能な限りトイレで排泄ができるよう支援している。立位が取れない利用者には2人体制で介助をしている。便秘予防のため、利用者の水分補給や野菜ジュースを飲むようにして対応している。また、自然排便がない利用者は医師と相談の上で緩下剤の調整を行い、快適に過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝、牛乳、こまめな水分補給、繊維の多い野菜をとる様にしています。 野菜ジュースを取り入れています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その日の体調に合わせて入浴支援をしています。残存機能に合わせて声掛け、介助して、気持ちの良い入浴を心掛けています。	
			(外部評価) 2日に1回を基本として、利用者の希望に合わせて入浴ができるように努めており、入浴が好きな利用者は毎日入浴することができる。立位が取れない利用者には2人体制で入浴介助をしたり、適切な福祉用具を活用して気持ちよく入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者さんによって、居室や今で横になって休まれたりしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 朝、昼、夕、食前、食後、名前を記入して薬箱に入れて管理しています。 薬の内容が分かるように処方箋をいつでも見られるようファイルにはさんでいます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみ、ごぼうそぎ、テーブル拭き等、その人その人ができるお手伝いなどしてもらっています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 1～2kの散歩をされる方が一人おられます。 お祭り等や花火には協力してもらって出掛けているが日常的とは言えません。	
			(外部評価) 利用者の重度化に伴い、車いすの使用が増えており、日常的に外出できる利用者は少なくなっている。事業所はリフトバスを購入し、通院の途中でスーパーで買い物ができるよう支援をしている。毎年、家族の協力を得て、観音水のそうめん流しに外出できるよう支援している。今年は、運営推進会議の委員に協力を得て外出支援ができるよう考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人で持っておられる方は一人あるも、使おうとはされません。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 職員が連絡を取り合っています。 利用者さんの意志で、できる方はいません。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地良く過ごせる様努めています。 季節のカレンダーは手作りし、お花も沢山生けるようにしています。 写真も喜ばれています。	
			(外部評価) 床や壁に木がふんだんに使用され、温かさが感じられる空間となっている。リビングは吹き抜けになっており、明るく広々と感じられ、テレビを置いている畳のスペースからは海を望むことができる。夕食後は皆で時代劇を観て楽しんだり、洗濯物をたたんだりして自由にくつろぐことのできる憩いの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テーブルで過ごす方、畳の上で寝転ぶ方、ソファで落ちつく方、思い思いに過ごされています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 日中、お部屋で過ごす人は少ないものの、夜間は使い慣れた枕や毛布等は自宅より持ち込んでいただいています。	
			(外部評価) 居室には、木製のベッドとたんすが備えられている。管理者は、家族に利用者の馴染みの家具や記念の物を持ち込むように声かけをしており、利用者は仏壇や位牌を持ち込みむなど落ち着いた生活が送れるよう支援している。利用者が作った俳句を職員が清書して居室入口に飾り、創作の励みになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 転倒の危険なく安全に休んでもらう為に、床へ布団を敷いています。	